

5. 名栗川の自然環境に関わる現況

名栗川は急峻な山あいを流れており、市街地を流れる下流域（開運橋～名郷付近）と山間部を流れる上流域（名郷付近から上流）に大別できる。

名栗川下流域は、河川沿いにわずかに存在する平坦な場所を中心に市街地化が進み、河川敷地際まで住宅地がせまっている場所が多い。また、コンクリート壁による護岸も多く見られ、河畔林と呼べる自然林は非常に少ない。

名栗川上流域は山間地域であり、川は溪流となる。名栗川の周囲の大半は、名栗村の古くからの産業である林業の基盤となるスギ植林地である。場所によっては砂防ダムが連続するため、魚類の行き来が阻害されている状態にある。

上～下流域を通して、いくつかの場所で植林や宅地化に適さない岩崖地がそのまま残り、そこには岩崖地に適応した植物が生息している。下流域のツルヨシが広がる河原や、上流域のスギ植林地など、単調な場所が多い名栗川流域において、こうした岩崖地は植物の生育空間としても、川の景観としても、特徴的な環境となっている。

名栗村は森林面積が村面積の94%を占めており、非常に森の多い地域である。しかし、森林面積の75%はスギ・ヒノキの植林地であり、広葉樹林が少ない状態にある。そのため、広葉樹林性の植物や鳥類がやや貧弱である。

以上のように自然環境としては課題となる点も少なくない名栗川であるが、水質としては清浄であり、今回の調査でも清浄な水域を好む生物が多数確認された。また、埼玉県希少な種も数種確認され、河川沿いの生物の重要な生息場所となっているといえる。

下流域の状況



住宅地沿いに見られるコンクリート護岸



ところどころに、見られる河畔林

上流域の状況



ところどころに見られる砂防ダム



山間部を流れる溪流